

# Contents

ごあいさつ	2
トピックス	4

## 事業概況

懸架ばね事業	6
シート事業	7
精密部品事業	8
産業機器ほか事業	9

## 決算情報

### 連結情報

連結貸借対照表	10
連結損益計算書	11
連結キャッシュ・フロー計算書	11
連結株主資本等変動計算書	11
業績の推移(連結)	12

### 単独情報

貸借対照表	13
損益計算書	13
株主資本等変動計算書	13
業績の推移(単独)	14

株式概況	15
役員・株価の推移	15
当社概要・グループ概要・株主メモ	裏表紙

## ごあいさつ



代表取締役社長

代表取締役会長

茅本 隆司 玉村和己

当社グループの2016年度報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における日本経済は、設備投資に足踏み感がありましたが個人消費や輸出の持ち直しの動きと雇用・所得環境の改善などから、緩やかな回復基調が続きました。また対米ドル円レートは、当初米国の利上げ観測の後退や英国のEU離脱問題に伴う先行き不透明感の高まりなどから前期と比べ大幅な円高で推移しましたが、米国での経済政策に対する期待などから11月以降は円安局面となりました。

世界経済につきましては、米国では個人消費の増加や設備投資の持ち直しの動きから景気回復が続き、政策金利の引き上げも実施されました。アジア地域においては、中国では輸出に弱い動きがありましたが小型車減税の効果もあり消費は堅調に推移しました。タイやインドでも景気の緩やかな回復がみられました。

当社グループの主要な事業分野であります自動車関連は、国内販売では軽自動車が不振であった一方登録車は新車投入効果などで堅調に推移したことから、5,078千台で前期比2.8%の増加となりました。完成車輸出は、4,636千台で前期比1.2%の増加となりました。国内の自動車生産台数は、9,360千台で前期比1.9%の増加となり

ました。

また、もう一方の主要な事業分野であります情報通信関連は、データセンター向けは堅調なものパソコン向けが減少したことにより、HDD(ハードディスクドライブ)の受注は前期比で減少しました。

以上のような経営環境のもと、海外事業での円高による円換算額の減少等により、売上高は626,950百万円(前期比2.1%減)となりました。また収益面では、合理化努力や受注車種構成の変化等により、営業利益は40,613百万円(前期比15.9%増)、経常利益は41,640百万円(前期比15.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は25,098百万円(前期比16.2%増)となりました。

なお、当期の期末配当金は1株につき12円とし、昨年12月にお支払いしました中間配当金11円とあわせて、年間では23円といたしました。

株主の皆さまにおかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2017年6月